



# きらめく風

すすんで学ぶ子ども 心ゆたかな子ども 体をきたえる子ども

## 行事で育つ子供たち

旭町小学校長 土屋 信行

日本全国で、今までに記録したことのないような暑さが続いた今年の夏休みも終わり、1学期後半が始まりました。本校では、水泳指導実施の目安を「気温と水温の合計が50以上」としてはいますが、今年の夏は合計が60以上の連続で、時には65を超える日もありました。まさしく「猛暑」であったと実感しています。保護者の皆様には、「夏季学力補充教室」「夏季水泳指導」、そして「開放プール」「ラジオ体操」「図書ボランティア」等に、多大なご協力をいただきまして有り難うございました。

練馬区の小・中学校で実施されている「二学期制」には、その効果の一つとして、「子供たちの学びの連続性が確保される」ことがあります。これは、「夏休み・冬休みの期間が学期の途中となるので、休み前に課題となった学習や生活態度、運動等に各自がじっくり取り組むことができる」ことを意味します。各ご家庭で、子供たちにそのような様子が見られましたでしょうか。

さて、本校ではこの秋、6年の連合水泳記録会（光八小会場）を皮切りに、運動会、広場の祭典、1・2年の遠足、5年の下田移動教室、音楽会、展覧会等々、様々な学校行事、地域行事が予定されています。それぞれに準備・練習等、努力を要する場面も多々ありますが、それを乗り越え、本番で成功したときの喜びは、何事にも代え難い貴重な経験、心の宝物となるものです。また、これらの行事は、お世話をしてくださった方への感謝の気持ちを育てる場でもあります。これが「子どもたちは行事で育つ」と言われる所以です。

不易と流行という言葉がありますが、教育の世界における不易とは、「時代を超えて変わらない調和のとれた人間形成を目指す」ことであり、「知・徳・体のバランスのとれた教育」の推進であると私は考えます。これは、本校の教育目標である「すすんで学ぶ子ども」「心ゆたかな子ども」「体をきたえる子ども」の具現化を図ることにほかなりません。

今後も子供たちは、多くの場面で保護者の皆様・地域の皆様にお世話になることと存じますが、ご指導・ご協力の程宜しくお願いいたします。

